



令和3年2月6日（土）

『楽しく作る、考えて造る』

園長 神戸 洋 美

子どもたちは小さな芸術家。自分の思ったとおりに、自由気ままに表現します。自分が「これだ!」と思ったら、牛乳パックもロボットになってしまうし、ただの空き箱がかっこいい車にと、廃品がどんどん変身していくのです。大人からの尺度はまったく関係ありません。「これ形がゆがんでない?」「色使いが変ではないのかしら?」「これで終わり?何か足りないような・・・」と思っても、大人と子どもの視点はまったく違います。

保護者の目にどう写るか、ということに視点を置くと、仕上がりのきれいなもの、形の良い見栄えのするものを要求し、完成までに多くの時間を費やしたり、子供たちの持っている能力以上のことを要求してしまったりして、楽しい作品作りができるかどうか疑問です。もちろん時間をかけた分、完成した時の喜びは大きいものですが、子供たちが本当に作りたいものからは、遠くかけ離れてしまうのではないかと考えました。

私たちが保護者の皆様をお願いしたいこと。それは、一人一人の作品を子どもの視点から見ていただきたいのです。その子が何を表現したかったのかどこを苦労したのか、完成品はもちろんですが、作る過程における努力もほめ、その子が「これはロケットなんだ」といったら、「ロケット?そう、すごいね。」と一緒に共感してあげましょう。間違っても「えっ、ロケット?これが?」と言ったり、「○○ちゃんの方が上手だね。」と決して比べたりしないでほしいのです。他のお子さんとの比較ではなく、一年でどれくらいの成長があったのか、ご自分のお子様の努力を認めてあげてください。そうでないと、せっかくお父さんやお母さんに見てもらおうと、一生懸命に作った気持ちが報われません。

大切なのは作品の完成度ではなく、そこまでの道程なのです。『自分で考えて夢中になって作った。とてもおもしろかった。そして作品が完成した。』という、その心地好い経験が重要なのです。

我が園では子供たちが心の中から表現したいものを作品にしようと、子どもたちの視点からの作品作りを行っています。一人一人の個性や作る喜びが、表現されるような作品展にすることをねらいとしました。

みんながピカソやゴッホになって、絵を描き作品を作った、この素晴らしいかわいい芸術家たちの作品展をどうぞご覧下さい。